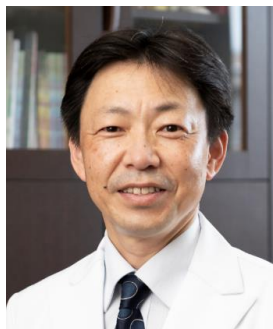


がんの転移と治療薬耐性のリアル！ ～症例検討会によろこそ～



担当教員：矢野 聖二

医薬保健研究域医学系
がん進展制御研究所/ナノ生命科学研究所

転移や薬剤耐性とは

がんは、できた場所（原発巣）にとどまっているうちに手術で切り取ってしまえば治ります。しかし、他の臓器にも飛んでしまう（転移）と手術ができなくなります。その場合、抗がん薬による治療をします。抗がん薬は一旦効きますが、一部が薬剤耐性となり治らなくなってしまいます。

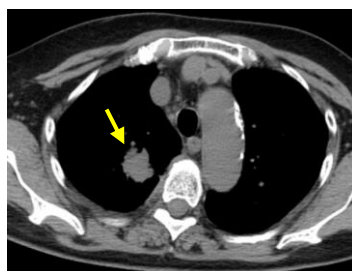
すなわち、いかにがんを転移する前を見つけるか、薬剤耐性を起こさせないかが、がんの治療では大切です。私たちは、実際に様々ながん患者さんの治療を行っています。また、薬剤耐性を克服する研究を行っています。

本プログラムでは

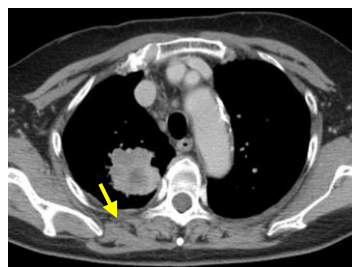
がんは、1cm³位の大きさ(10億個のがん細胞)にならないとCTや超音波検査などではっきりと見えません。これらの検査で見つかった実際のがんがどのように見えるのか体験してもらいます。また、どのようにしてがんが転移し薬剤耐性となるのかを学んでもらいます。



全身に転移した がんの
PET画像（黒色が転移）



抗がん薬で小さくなったがん



薬剤耐性となり増大